

図 2.4(2) 気象条件(2006 年度)

3) 水温・塩分境界条件

湾口における水温・塩分の境界条件は愛知県水産試験場が実施した海洋速報（沿岸域の定線観測データ）を利用し、鉛直方向及び時間方向に補間して設定した（図 2.5 参照）。

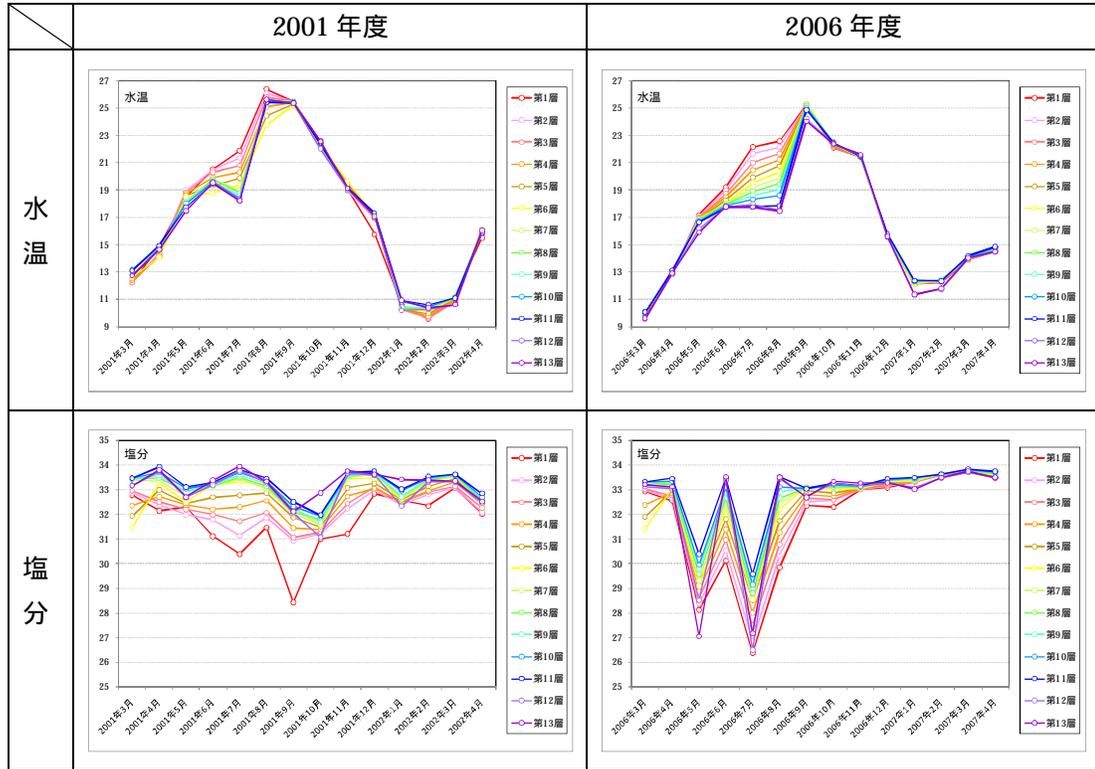


図 2.5 代表的な境界格子における水温・塩分の設定値（左：2001年度、右：2006年度）

4) 境界水位条件

湾口境界における水位境界条件は、境界位置に最も近い鳥羽検潮所（気象庁）の調和定数（参照：表 2.2）を基に、長周期潮を含む 13 分潮の水位変動を設定した。その上で、日周潮及び半日周潮の調和定数に関しては、計算によって得られた鳥羽検潮所の調和定数の再現性を考慮して修正し、設定した。

表 2.2 境界における調和定数

分潮名		振幅(cm)	遅角(°)
長周期潮	Sa	13.10	159.6
	Ssa	1.80	342.4
	Mm	1.40	65.8
	MSf	1.20	30.5
	Mf	0.70	158.8
日周潮	Q ₁	3.28	149.92
	O ₁	16.56	163.19
	P ₁	6.68	172.00
	K ₁	22.31	182.40
半日周潮	N ₂	6.71	163.94
	M ₂	44.62	171.54
	S ₂	20.68	199.05
	K ₂	6.85	184.25

2-1-2 計算結果

1) 流れ

比較に用いる流れの実測値には、運輸省第五港湾建設局が三河湾全域で実施した調査結果¹を用いる。観測点を図 2.6 に、各測点の観測層を表 2.3 に示す。

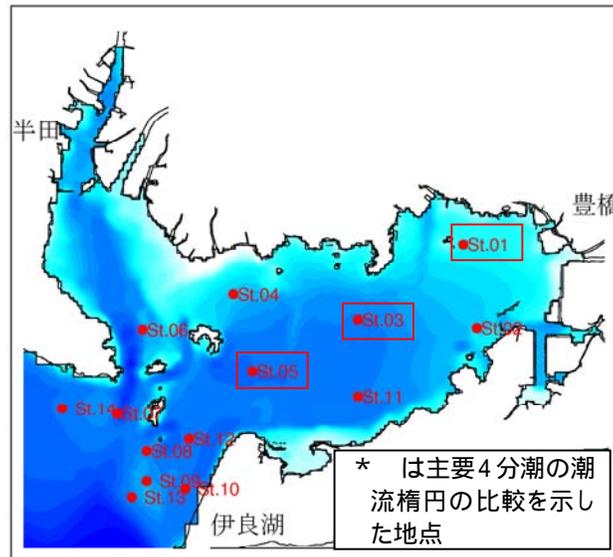


図 2.6 運輸省第五港湾建設局による調査地点

表 2.3 各測点の観測層

測点	夏季 (1978年7-8月)		冬季 (1977年12月)	
	水深	観測層	水深	観測層
St.1	7.8	上、下	7.0	上、中
St.2	9.8	上、下	10.0	上、中、下
St.3	14.5	上、中、下	12.5	上、中
St.4	10.2	上、下	11.0	中、下
St.5	21.3	上、中、下	22.0	中、下
St.6	13.0	上、中、下	16.0	中、下
St.7	21.8	上、中、下	20.5	中、下
St.8	15.0	上、中、下	16.3	中、下
St.9	10.9	上、中、下	14.0	中、下
St.10	21.3	上、中、下	18.0	中、下
St.11	15.8	上、中、下	-	-
St.12	18.3	上、中、下	-	-
St.13	13.1	上、中、下	-	-
St.14	16.9	上、中、下	-	-

夏季：[上：海面下2m]、[中：海面下6m]、[下：底上2m]

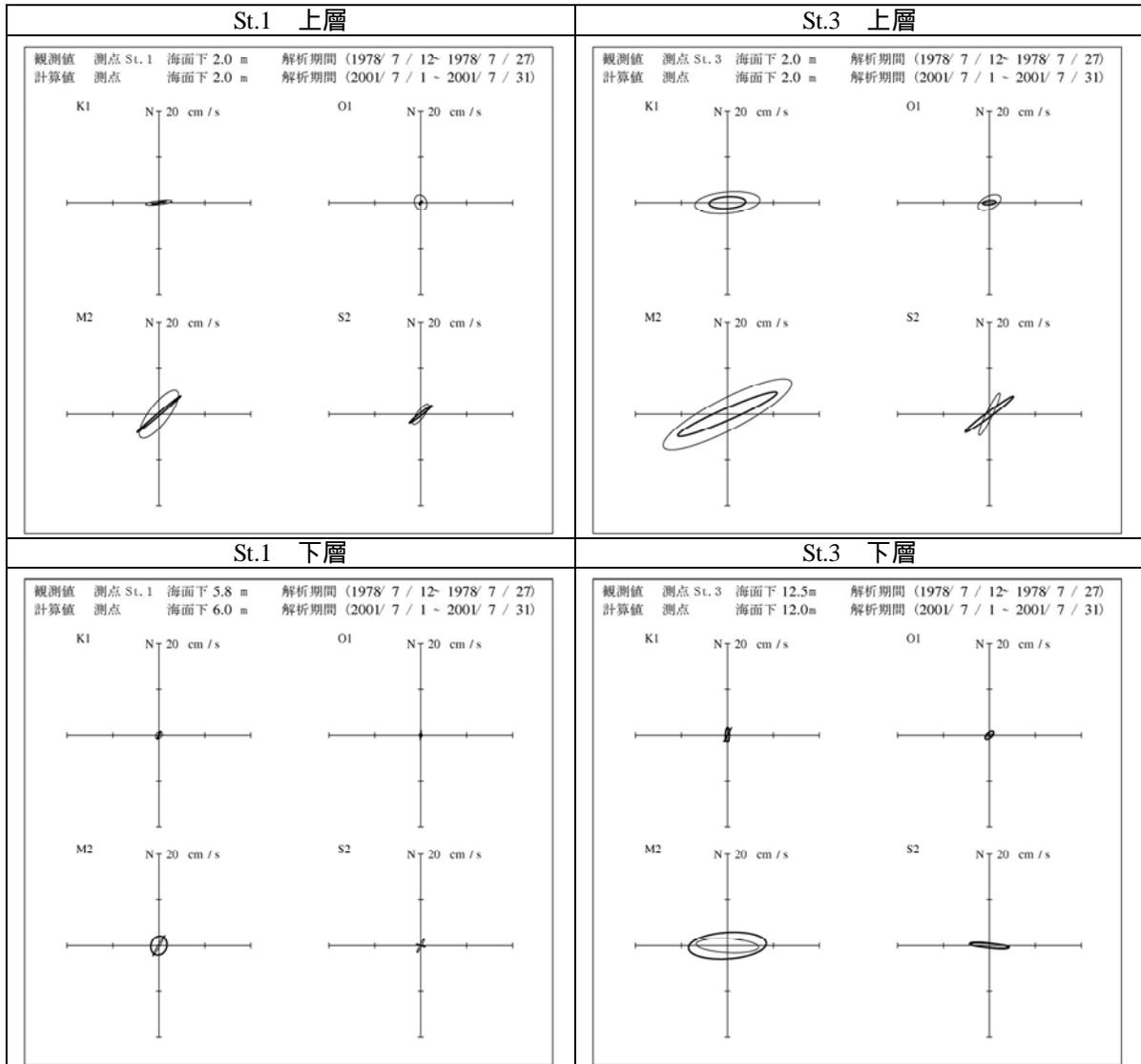
冬季：[上：海面下1m]、[中：海面下5m]、[下：底上2m]

¹運輸省第五港湾建設局(1979)：伊勢湾水理模型実験場報告 No.15 Mar.1979 三河湾流況調査

(1) 潮流楕円

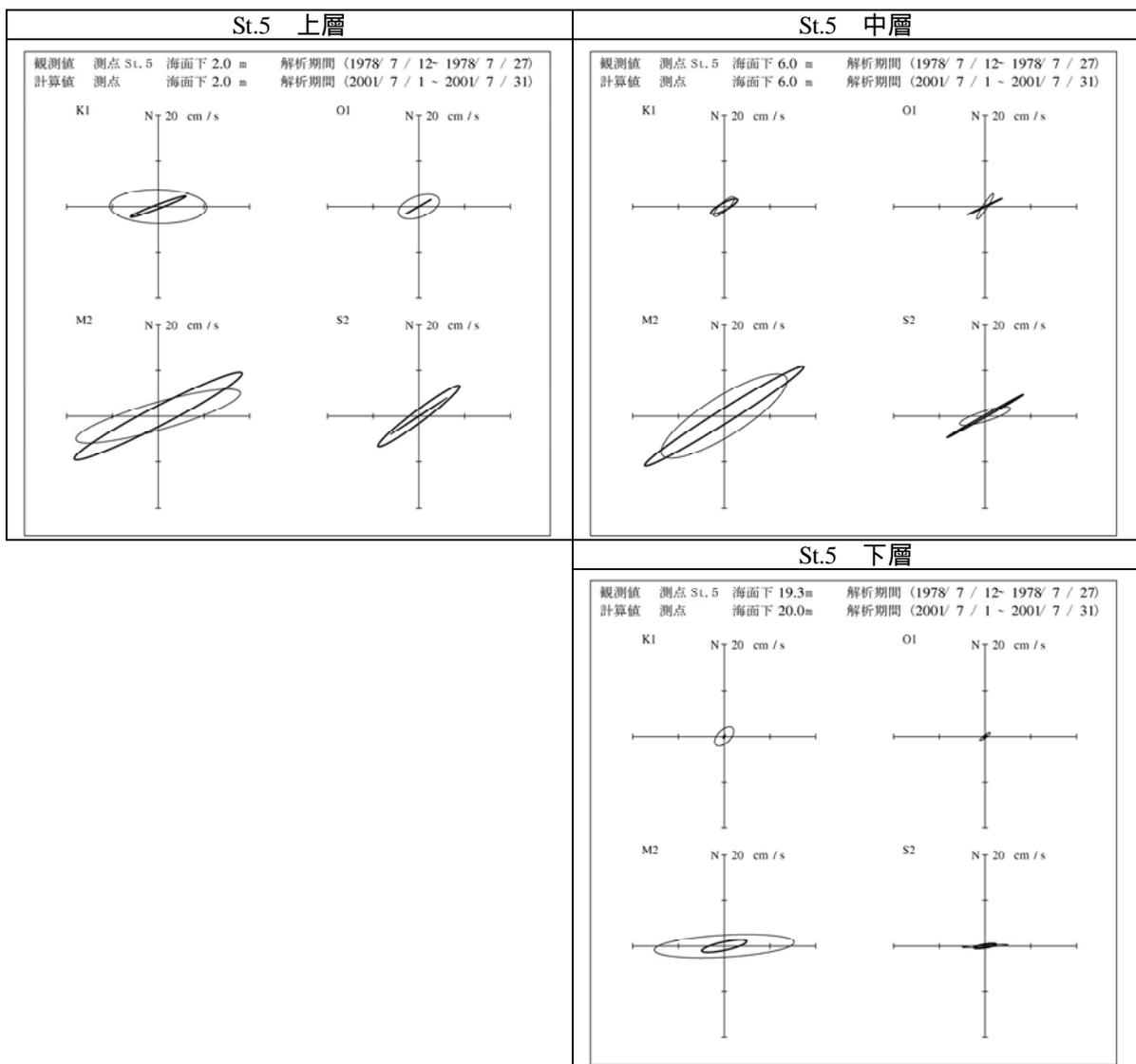
図 2.7、図 2.8 に St.1、3、5 における 2001 年度の夏季、冬季について、また、図 2.9、図 2.10 に St.1、3、5 における 2006 年度の夏季、冬季についての主要 4 分潮の潮流楕円の比較を示す。

各分潮の潮流楕円について、計算値と観測値をくらべると、楕円の大きさや長軸の方向が概ね一致しており、計算値は観測値の傾向を表現していると考えられる。



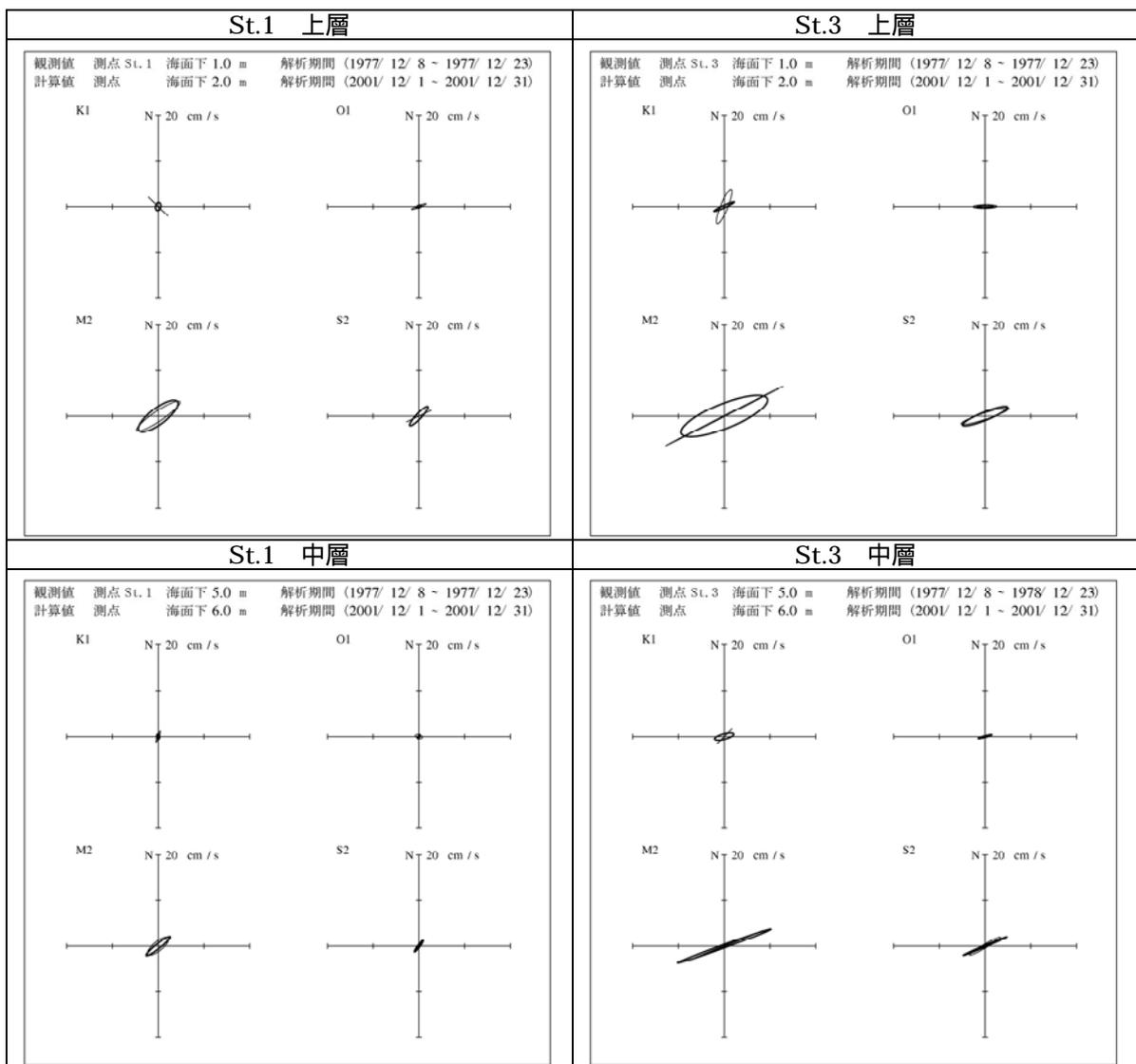
[凡例] 細線：観測値、太線：計算値

図 2.7 (1) 2001 年度夏季における潮流楕円の比較図 (St.1 および St.3)



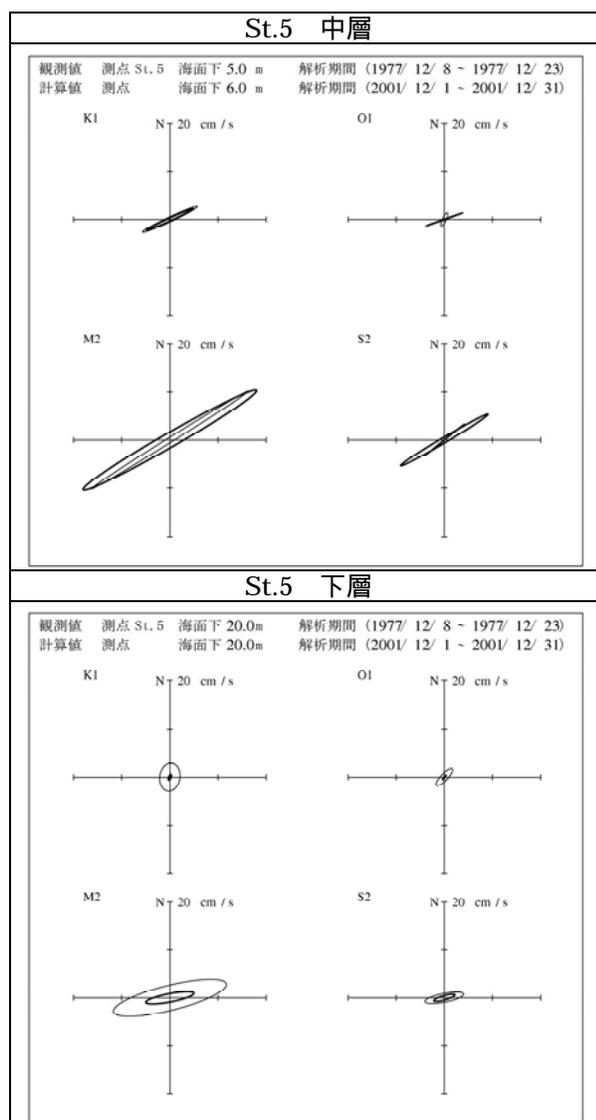
[凡例] 細線：観測値、太線：計算値

図 2.7 (2) 2001 年度夏季における潮流楕円の比較図 (St.5)



[凡例] 細線：観測値、太線：計算値

図 2.8 (1) 2001 年度冬季における潮流楕円の比較図 (St.1 および St.3)



[凡例] 細線：観測値、太線：計算値

図 2.8 (2) 2001 年度冬季における潮流楕円の比較図 (St.5)